

## 2018年度 大学入試センター試験（本試験）分析と学習のアドバイス

科目： 生物

### ◆全体概況

大問数・解答数	大問数：7題 解答数：34問
難易度	やや難化
分量	やや増加

### ◆大問別分析

大問	出題分野・テーマ等	配点	分析
第1問	生命現象と物質	18	タンパク質の構造と機能に関する知識問題と、DNAの複製と遺伝子の発現に関する知識問題と考察問題が出題された。やや細かな知識を必要とする問題もあったが全体的に難易度は標準的。
第2問	生殖と発生	18	両生類の発生と、被子植物の生殖に関する出題であったが、Bの考察問題については選択肢の吟味に時間がかかった受験生も多かったであろう。
第3問	生物の環境応答	18	筋収縮と植物の病害抵抗性に関する出題。Bの実験考察問題で実験結果の推論が必要であったため、受験生にはやや難しかったか。
第4問	生態と環境	18	生態系の物質生産と種間関係・生物多様性に関する問題であったが、Aの生産者の純生産量を求める計算問題は単純に式を丸暗記していた受験生には厳しい。
第5問	生物の進化と系統	18	分子進化・集団遺伝と進化の仕組み・植物の系統に関する出題。分子時計の問題は、塩基配列の違いから計算を進める必要があり、手間取った受験生も多いだろう。
第6問	遺伝子の組み換え	10	遺伝子の組み換え実験に関する問題であったが、いずれも基礎から標準的な問題で解答しやすいものであった。
第7問	生物の生態と系統	10	個体群・生物の進化と系統に関する出題であった。考察問題の練習が不十分であった受験生には厳しい問題であった。